

陸上競技(短距離)プログラム報告 2011年7月9日プログラム

日付: 2011 年 7 月 9 日 (土曜日)

分類: [手記](#)

しらこぼと運動公園競技場での合同練習会から一週間、今日は慣れ親しんだ県民健康福祉村に戻って通常のプログラムです。



最初にウォーミングアップのウォーキングですが、高温多湿の天気予報を慮って、歩く距離を半分に、ジョギングコースの後半を歩くことにしました。そして定例の植物鑑賞のターゲットですが、今を盛りの合歓の花を選びました。四年前にもこの時期に同じ花をテーマにプリントを作りましたが。

この時は芝生広場と冒険広場の間のコース沿いに咲いた合歓の花の画像に芭蕉の有名な句↓を添えて、句中の地名と人名の解説を試みました。

象潟や雨に西施がねぶの花 芭蕉

今回は同じ所の同じ花の画像に草田男の下記の句を載せ、解釈を試みました。四年前のプログラムの時に出席していたアスリートも含めて、アスリートたちの反応が大いに楽しみでしたが。

花合歓や風とは横に走る瑠璃 草田男

私は例によってウォーキングの一行に先行して、目的地で皆を待ちました。

やや有ってウォーキングの一団が見えてきました。先頭は志賀コーチです。一団を合歓の木の根元にリードしてやおら質問。

「ジャックと豆の木って話を知ってるかな？」

この質問にはアスリートの多くが手を上げました。其処で合歓の木もマメ科の木だと言うこと、夜になると葉が眠ったように閉じることから『ねむ』と云う名前があること等を説明しました。これにはO君が

「此処にこういう木が有る事は知ってたけど、名前は知らなかった。そうか、ネムネム」

と、手枕の格好をして見せました。中々の乗りです。

ウォーキングの後は何時を通りの二千メートル走。ここで心配していたことが現実になりました。A君が途中でリタイアしてスタートラインに戻って来たのです。顔色が異常です。

看護師でもあるK君のお母さんが応急処置を施し、明石さんと青木さんが付き添って、救急車でA君の罹りつけの吉川中央病院に向かいしました。その後の状況は明石さんからのメールによると

「途中で連絡をとったお母さんも駆けつけられ、検査・点滴と状況もよくなったので、我々2人は病院から退出しました。

このあと、お母様から青木さんにつぎのような連絡があったそうです。食事が出来るほどに回復したそうですが、念のため月曜日まで入院することになったそうです。」

と云うことで、最悪の事態は免れたようで、ホッとしました。

残ったメンバーは種目別に別れ、短距離グループは九月の陸上競技会を意識して、百と五十の記録をとり、クラウチング・スタートのブラシ・アップをして、熱気と湿気に包まれたプログラムは、十一時十八分、大坂PCのリードする体操で終了しました。

中 村 泰 雄

注:一部人名をイニシャルに変換して掲載しております。